

6 主張と根拠

プリントー

国語のワーク5・6年生

自分の意見のことを「主張」と言います。

「主張」の理由にあたる部分を「根拠」と言います。

このプリントでは、自分の意見を主張する作文の型を練習しましょう。

次の作文は

第一段落「主張」・第二段落「根拠」・第三段落「具体例・解説」・第四段落「まとめ」
という構成で書かれています。

よく読んで、作文の構成を理解しましょう。

第一段落「主張」

ぼくが将来になりたい職業は。特にありません。

第二段落「根拠」

なぜなら、ぼくはすぐに気が変わる性格だからです。

第三段落

「具体例・解説」

たとえば、ぼくは去年まではカブトムシが大好きでした。しかし、今はカブトムシに少しあきてしまい、恐竜の方が好きです。今は毎日のように、恐竜の図鑑を読んだり、恐竜の動画を観たりしています。

第四段落

「まとめ」

このように、ぼくはすぐに好きなものが変わってしまいます。だから、ぼくが将来になりたい職業を今決めたくても、どうせ大人になったら気が変わっていると思います。将来になりたい職業は、特に決めない方がいいと思います。

6 主張と根拠

プリント2

国語のワーク5・6年生

「ゲームをするときに終わりの時間を決めた方がよいか」という題で作文を書いたところ、二つの作文の段落がばらばらになってしまいました。それぞれの書き出しに合う段落を選び記号で答えましょう。

① ぼくは、ゲームをするなら終わりの時間を決めてするべきだと考えます。

根拠「ア」 具体例・解説「エ」 まとめ「イ」

② ぼくは、ゲームを終わりの時間を決めてすることには反対です。

根拠「カ」 具体例・解説「ウ」 まとめ「オ」

ア なぜなら、ゲームに熱中しすぎると、つい夜遅くまでやってしまうからです。

イ このように、ゲームを夜遅くまですると、悪いことだらけです。だから、ゲームは終わりの時間を決めてするべきなのです。

ウ たとえば、ゲームには、ストーリーやミッションの区切りがあります。これらの区切りは、あらかじめ何分か分かるかららないことでもあります。なのに、終わりの時間を決めてしまったら、はんぱなところでやめてしまうことになり、そうなる则ぼくは、かえって気になりすぎて他のことが手につかなくなってしまう。

エ たとえば、このあいだぼくは新しいゲームを買ってもらいました。ぼくは、新しいゲームがうれしくて、終わりの時間を決めずにやっているうちに、夜の十二時をすぎてしまいました。おかげで、お母さんには怒られるし、次の日の朝起きるのがつらかったです。

オ このように、ゲームの終わりの時間を決めることは、かえってよくないこともあります。だから、ゲームの終わりの時間は決めるべきではないのです。

カ なぜなら、終わりの時間を決められると、すぐく中途はんぱなところでやめなくてはならないことがあるからです。

6 主張と根拠

プリント3

国語のワーク5・6年生

「夏休みの宿題」について、あった方がよいか、なくした方がよいか作文を書いたところ、二つの作文の段落がばらばらになってしまいました。それぞれの書き出しに合う段落を選び記号で答えましょう。

① 私は、夏休みの宿題はなくすべきだと考えます。

根拠「オ」 具体例・解説「エ」 まとめ「ア」

② 私は、夏休みの宿題はなくすべきではないと考えます。

根拠「ウ」 具体例・解説「カ」 まとめ「イ」

ア このように、夏休みといっても、ふだん学校があるときよりもいそがしい気持ちになり、自分の自由な時間はかえって少なくなっただよな気がしました。だから夏休みの宿題はなくすべきなのです。

イ このように、夏休みの宿題のおかげで、お母さんやお父さんと楽しい時間をすごすきっかけができました。だから、夏休みの宿題はなくすべきではないのです。

ウ なぜなら、夏休みの宿題のおかげで、お母さんやお父さんと楽しく過ごすきっかけができたからです。

エ たとえば、私は夏休みの読書感想文を書くために、本を読む時間も入れて三日もかかってしまいました。また、学校の宿題以外にも、塾の夏期講習があって、その宿題もしなければならず、すごくあせりました。

オ なぜなら、夏休みの宿題のおかげで、すごくいそがしくなって、自由な時間がなくなるからです。

カ たとえば、工作や自由研究です。私は工作でエプロンを作りました。このエプロンはお母さんと作ったのですが、お手伝いをするときに家で使っています。そして、自由研究では星座のことを勉強しました。星座の勉強を

6 主張と根拠

プリント4

国語のワーク5・6年生

プリンターにあった「将来になりたい職業」の作文ですが、「根拠」を二つにして書き直してみます。ここでは、作文を書く前にメモを作っていきましょう。

根拠が二つの場合の段落構成

- 第一段落「主張」
- 第二段落「根拠①」と「具体例・解説」
- 第三段落「根拠②」と「具体例・解説」
- 第四段落「まとめ」

作成したメモ

- 第一段落「主張」
なりたい職業は特になし
- 第二段落「根拠①」
すぐに気が変わるから
「具体例・解説」
去年はカブトムシが好きだった 今は恐竜が好き
- 第三段落「根拠②」
予想できない
「具体例・解説」
AIが発達 新しい職業
- 第四段落「まとめ」
将来のことは分からない

※ 作文を書く前のメモは、なるべく簡単に書きましょう。

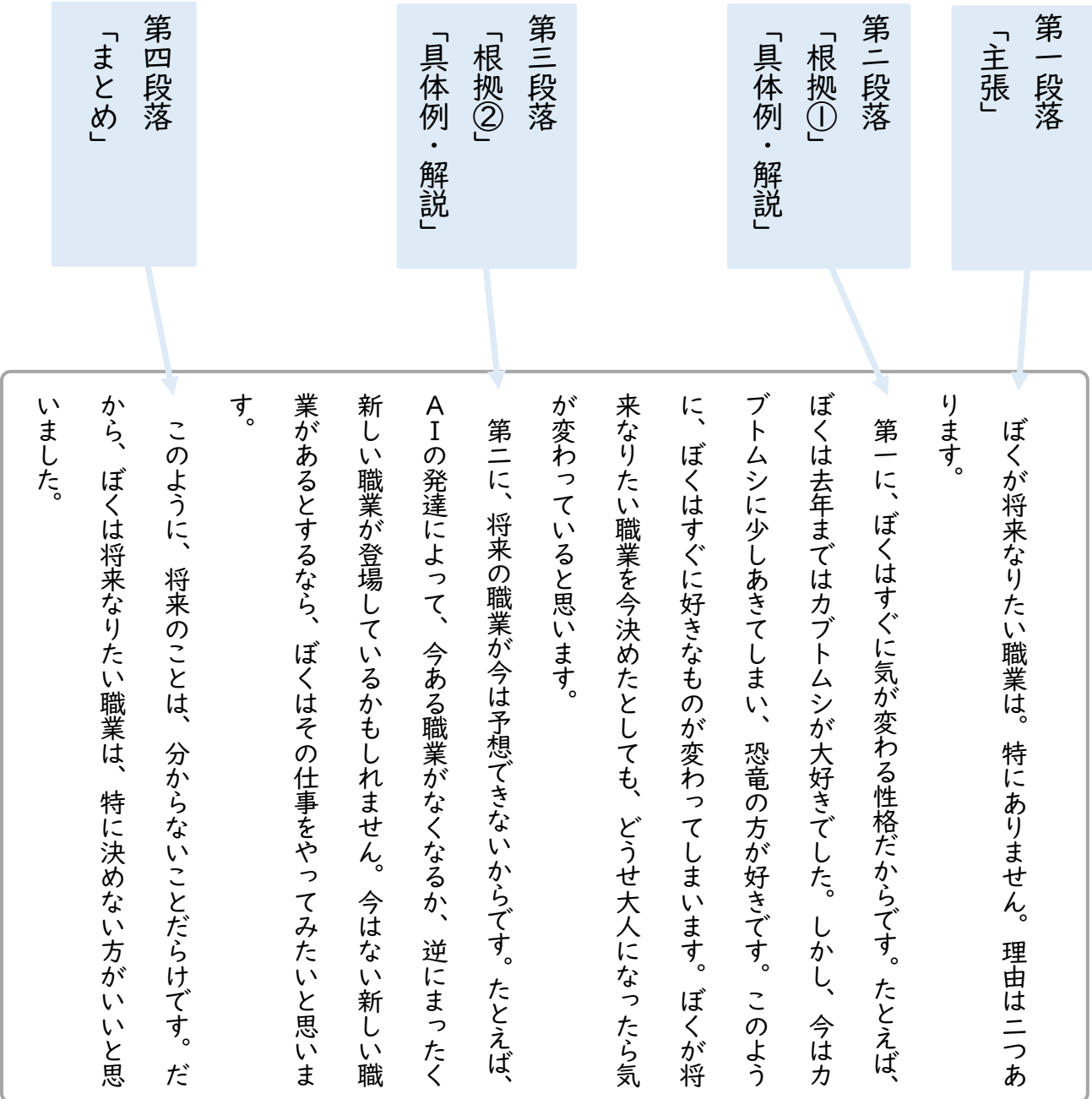
6 主張と根拠

プリント5

国語のワーク5・6年生

プリント4で作成したメモを元に、作文を書きました。メモから作文へのつなげ方、段落構成を確認してください。

この作文では、「なりたい職業は、特にない」という少し変わった主張をしています。しかし、一見変わった主張でも、分かりやすい段落構成と分かりやすい根拠を用いることで主張に説得力を持たせることができます。



第一段落 「主張」
 ぼくが将来になりたい職業は、特にありません。理由は二つあります。

第二段落 「根拠①」「具体例・解説」
 第一に、ぼくはすぐに気が変わる性格だからです。たとえば、ぼくは去年まではカブトムシが大好きでした。しかし、今はカブトムシに少しあきてしまい、恐竜の方が好きです。このように、ぼくはすぐに好きなものが変わってしまいます。ぼくが将来になりたい職業を今決めたとしても、どうせ大人になったら気が変わっていると思います。

第三段落 「根拠②」「具体例・解説」
 第二に、将来の職業が今は予想できないからです。たとえば、AIの発達によって、今ある職業がなくなるか、逆にまったく新しい職業が登場しているかもしれません。今はない新しい職業があるとすれば、ぼくはその仕事をやってみたいと思います。

第四段落 「まとめ」
 このように、将来のことは、分からないことだらけです。だから、ぼくは将来になりたい職業は、特に決めない方がいいと思います。

6 主張と根拠

プリント6

国語のワーク5・6年生

作文のメモを作ります。次に示す題と主張を一つ選んで、メモを作成し、これまで学んだ段落構成にしたがって作文を書いてみましょう。作文は、ノートや原稿用紙に書きましょう。

題① 「宿題はするべきか」

主張 「宿題はするべき」「宿題はするべきではない」

題② 「朝ごはんを食べた方がよいか」

主張 「朝ごはんは食べた方がよい」「朝ごはんは食べない方がよい」

選んだ題

「 」

第一段落「主張」

Blank box for the first paragraph (main claim).

第二段落「根拠①」

Blank box for the second paragraph (evidence 1).

「具体例・解説」

Blank box for the second paragraph (specific example/explanation).

第三段落「根拠②」

Blank box for the third paragraph (evidence 2).

「具体例・解説」

Blank box for the third paragraph (specific example/explanation).

第四段落「まとめ」

Blank box for the fourth paragraph (summary).

次ページ以降にメモと作文の例を示しますが、あくまで一例ですので参考までにどめましょう。

6 主張と根拠

作文例1

国語のワーク5・6年生

選んだ題 「宿題はするべき」

第一段落 「主張」 宿題はするべき

第二段落 「根拠①」 復習になる

「具体例・解説」 漢字ドリル

第三段落 「根拠②」 授業の確認になる

「具体例・解説」 わり算の計算

第四段落 「まとめ」 勉強したことが定着する

作文例

宿題はすべきである。

なぜなら、復習になるからだ。たとえば、漢字を授業で一回見ただけでは覚えることができない。

宿題の漢字ドリルなどで勉強することで、新しく習った漢字が書けるようになる。

また、宿題をすることで、授業中に理解しきれなかったことを確認することができる。たとえば、算数のわり算などで、授業中の先生の説明だけではよく分からなかったときでも、宿題でやれば分かるようになるかもしれない。やらなければ分からないままだ。

このように、宿題は基本的に授業の復習になっているので、学校で勉強したことについて、宿題をすることで定着させることができる。だから、宿題はきちんとするべきである。

6 主張と根拠

作文例2

国語のワーク5・6年生

選んだ題

「宿題はするべき」

第一段落 「主張」

宿題はしなくてよい

第二段落 「根拠①」

みんながうから

「具体例・解説」 計算ドリル

第三段落 「根拠②」

できないときがある

「具体例・解説」 塾 体調

第四段落 「まとめ」

みんながう

作文例

宿題はしなくてもよい

第一に、学力はみんなちがうからである。たとえば、計算ドリルが宿題になったとき、その計算が全部楽勝でできる人もいれば、すごく難しく感じる人もいる。ちょうどよいなら問題ないが、楽勝な人にとってはやる必要のない練習だ。また、難しい人にとっては難しすぎてできないということになり、どちらにしても宿題の意味がない。

第二に、いろいろな理由でどうしてもできないときがあるからだ。学校から帰っても、いろいろな予定があってできないときがある。塾や習い事がいそいでできないときもあるし、体調がしんどくてやるのがつらいときもある。それでも、宿題を絶対にやらないといけないというのはおかしい。

このように、人にはそれぞれ能力のちがいや、生活のちがいがあるため、みんな同じように同じ宿題ができるとはかぎらない。だから、宿題はしなくてもよいもので、したい人だけがやればいいのである。

6 主張と根拠

作文例3

国語のワーク5・6年生

選んだ題

「朝ごはんは食べた方がよい」

第一段落「主張」

食べた方がよい

第二段落「根拠①」

おなかがもつ

「具体例・解説」

集中できない

第三段落「根拠②」

学習効果が高まる

「具体例・解説」

脳にエネルギーがいく

第四段落「まとめ」

授業をむだにしない

作文例

朝ごはんは食べた方がよいと私は考えます。理由は二つあります。

一つ目は、おなかがもつからです。朝ごはんを食べずに学校へ行くと、給食までにおなかが空いてしまい、勉強に集中できなくなります。私は食べても食べてもすぐにおなかが空くので、朝ごはんを食べないのは無理です。

二つ目は、学習効果が高まると言われているからです。朝ごはんを食べると、そのエネルギーが脳にまわり、学習効果が高まると言われています。朝ごはんをたべなければ、脳にエネルギーがまわらず、授業を受けていてもぼーっとして理解ができなくなるかもしれません。

このように、朝ごはんを食べないと、学校の勉強ができなくなります。だから、午前中の授業をむだにしないためにも朝ごはんは食べた方がよいのです。

6 主張と根拠

作文例4

国語のワーク5・6年生

選んだ題

「朝ごはんは食べた方がよい」

第一段落「主張」

食べない

第二段落「根拠①」

苦手だから

「具体例・解説」

いろいろ気になる

第三段落「根拠②」

朝の時間は貴重

「具体例・解説」

いろいろいがしい

第四段落「まとめ」

することがあります

作文例

私は、朝ごはんを食べません。

私は、朝から何かを食べるのが苦手だからです。朝はまず、前の日にした学校へ行く準備がきちんとしてきているか確認します。忘れ物がないか、宿題はきちんとできているか、その日の時間割はどうなっているかなど、気になることはたくさんあります。とてもごはんを食べるような気分にはなれません。

また、私にとって朝の時間はとても貴重です。たとえば、私は朝に学校へ行く準備以外にも、金魚にえさをあげたり、お花に水をあげたり、することがたくさんあります。朝起きてから学校へ行くまでの時間は、私にとってとても貴重です。朝ごはんを食べる時間はありません。

このように、私は朝の時間はごはんを食べるよりもたくさんすることがあります。だから、私は朝ごはんを食べないのです。